

白石の歴史文化を満喫しました

台湾の学生が教育旅行に来白

2月6日、台湾の国立台南第一高級中学校の学生が、教育旅行の一環として本市を訪れました。この旅行は、インバウンドを推進する本市が、宮城県などと連携して誘致したもの。バスで訪れた生徒や教職員など約80人は、白石城や神明社などを観光し、写真撮影や甲冑と着物の試着体験などを楽しみました。生徒は「大河ドラマを見て憧れていた甲冑や着物を着られてうれしいです」「桜の季節にまた訪れてみたいです」と話してくれました。一行はこのあと仙台市や南三陸町などを訪れ、観光や県内の高校生との交流事業などを行いました。



▲刀を抜いて決めポーズ！ 試着体験で記念撮影

夢の職業、どんな職業？

白石中学校で「職業人に聞く会」を開催

1月23日、市内で働く人が中学生に仕事のやりがいなどを伝える「職業人に聞く会」を開催しました。地方創生事業の一環として行われたこの会は、中学生に将来の仕事への意識を高め、また地元で就職し定住してもらおうと市と白石中学校が共催したもの。保育士や看護師、警察官など10の職業人の協力を得て、同校1年生約100人に仕事の内容や魅力、就職したきっかけなどを話してもらいました。生徒は「興味ある仕事の話聞いてよかったです。これからもっと調べて、将来を考えていきたいです」と話してくれました。



▲メモを取りながら、熱心に話を聞く生徒たち

清流に浸して甘みが増す

「寒ざらしそば」の仕込み作業

1月19日、毎年恒例となった「寒ざらしそば」仕込み作業が、白石スキー場から林道に約1km入った溪流で行われました。今年で15回目となるこの作業には、白石興産株式会社の社員やそば打ち愛好家有志、小原のなごみ茶屋などのそば店経営者ら8人が参加。白石市福岡八宮産のそばの実「玄そば」540kgを、水温0度の清流に浸しました。そばの実は2週間ほどで引き上げ、乾燥後「寒ざらしそば」として数量限定で提供されます。寒ざらしそばは、アクと雑みが抜けてほのかな甘みを増し、つるりとしたど越しが楽しめる人気となっています。



1_白石産のそばの実。多くのそばファンが寒ざらしそばを待望！
2_約1mの雪をかきわけ、清流に「玄そば」を浸しました

全国大会での活躍を誓う！

ソフトテニス3選手が全国大会に挑む

1月26日、第29回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会に出場する中村倅選手と佐藤佑亮選手（ともに白石中学校2年）の2人と、第17回全国小学生ソフトテニス大会に出場する根津圭威士選手（白石ソフトテニススポ少・福岡小学校4年）が、市スポーツセンター内アリーナで練習を行いました。全国大会への出場経験が豊富な中村選手は「優勝目指して頑張ります」と、初出場となる佐藤選手と根津選手は「楽しんでプレーしたいです」、「上位を目指して頑張ります」とそれぞれに今大会にける意気込みを話してくれました。



▲活躍を誓う根津選手（左）、中村選手（中央）、佐藤選手（右）

心の鬼に負けないぞ！

市内の園児がすまゐるひろばで豆まき

2月2日、認可保育所あそびの森とひかり幼稚園の園児約200人が、すまゐるひろばで豆まきをしました。この催しは、節分の日を前に子どもたちに豆まきを楽しんでもらおうと、白石まちづくり株式会社が企画した恒例行事。子どもたちの心に潜む「いたずら鬼」、「かぜひき鬼」、「散らかし鬼」がステージに現れると、園児たちは元気に声を上げながら、丸めた新聞紙の「豆」を投げて鬼を退治しました。最後は反省した鬼たちと仲直りし、鬼たちと一緒にダンスを踊るなど、訪れた人たちを楽しませていました。



▲みんなでいっしょに「鬼は外、福は内！」

100歳おめでとうございます

佐藤今朝江さんに松竹梅敬老祝金

2月8日に100歳を迎えた佐藤今朝江さんを山田市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を贈り長寿を祝いました。今朝江さんは大鷹沢のお生まれ。器用な手先を生かし技術科の教員として市内中学校に赴任し、多くの生徒を指導してきました。若いころは、知人と旅行に出掛けるなど、遠出をすることが趣味でしたが、近年は、自宅で新聞を隅々まで目を通すことを日課としていました。現在は、施設での生活を楽しく過ごし、食事はなんでも食べるそうです。長生きの秘訣を家族は、腹八分目の食事を守ってきたことではないかと話してくれました。



▲施設から贈られた花束を手に笑顔の今朝江さん（右）と山田市長

地域の交流、世代を越えて

第14回鷹巣冬まつりもちつき大会

1月21日、鷹巣地区の観福寺で「第14回鷹巣冬まつりもちつき大会」が開催されました。この催しは、地域に住むお年寄りから子どもまで幅広い世代に交流してもらおうと、地区のまちづくり団体「たかのすはっぴ会」が毎年開催している恒例行事。この日は地区の住民約180人が訪れ、杵と臼を用いた昔ながらの餅つきや伝統神楽、こまやけん玉、竹馬などの昔遊びを楽しんでいました。つきたてのお餅は、あんこ餅、納豆餅、お雑煮にして来場者に振る舞われ、子どもたちは何度もおかわりに並ぶなど堪能していました。



1_竹馬に挑戦。支えてもらってイチ・ニ、イチ・ニ！
2_親子でもちつき。見ている人も一緒に盛り上げました

日本の食文化を見つめ直して

東中学校で「和食を学ぶ研修会」

1月18日、東中学校で「和食を学ぶ研修会」が行われ、1年生25人が参加しました。この研修会は、平成25年に日本の和食がユネスコの世界無形文化遺産に登録されたことを受け、白石ユネスコ協会が市内の中学生に和食に慣れ親しんでもらおうと企画。4回に分けて1年生全員が参加しました。この日は「茶わん蒸し」づくりに取り組み、昆布と鰹節から丁寧だしを取るなど、班ごとに協力しながら調理しました。生徒は「初めてだしを取りましたが、鰹節の量が多くて驚きました。家でもだしを取った料理に挑戦してみたいです」と話してくれました。



▲竹串を刺して茶わん蒸しの出来上がりを確認する生徒と協会員